

平成 2 8 年度

横浜市立高等学校
及び
南高等学校附属中学校

学校関係者評価書

対象校：横浜市立横浜商業高等学校

調査全体の日程

調査日：平成29年 3月 9日

調査対象校：横浜市立横浜商業高等学校

中條 祐介 横浜市立大学国際総合科学部 学部長

大津 幸雄 南区社会福祉協議会 会長

山崎 直宏 南区青少年指導員協議会 会長

大坪 路子 南区更正保護女性会 会長

濱田 千浪 横浜商業高等学校PTA会長

リーダー：大津 幸雄

3. 学校関係者評価

(1) 資料説明

(2) 学校評議員からの指導・助言

(3) 意見交換

4. その他

本校出席者

校長 富地 正博

校長代理 小関 雅弘

副校長 山崎 晴生

副校長 石川 博

主幹教諭 角田 武彦

教諭 籠山 昭二（記録）

学校評議員会議でいただいた意見

1 第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況について

○商業科

説明

- ・個性を伸ばす専門教育の推進を目標として、各種検定や外部のビジネスコンテストへの参加や販売士試験検定取得に取り組むなど専門性の深化を行った。
- ・高大連携では横浜市立大学・関東学院大学・東洋大学と連携を実施した。
- ・産学連携ではYBC「課題研究」の授業において、中外製薬との連携を新たにスタートし、同社から与えられた課題を生徒達が考察し解決策のアイデアを提示し講評をいただくという企画が実現した。受験だけではなく社会人とかかわることにより社会を知る良い機会になった。
- ・公務員希望者が多いので、受験講座を開設し、他校にない多くの合格者34名を輩出した。
- ・パソコン教室を通して老人クラブとの交流が28年度で10年目となる。老人クラブの方々にとっても高校生と触れ合う良い機会となっているようだ。また、高校生にとっても授業で学んだ敬語の使い方などを実践する良い機会となっており、丁寧なご指導をいただいている。今後も交流を継続していきたい。
- ・課題として、全国商業高等学校主催の検定試験に関して、3科目以上合格者の人数が27年より下回った。今後も継続して丁寧な学習指導を行い、高い合格水準を維持したいと考えている。

意見

- ・資格取得等が順調に成果を上げた点は評価できます。また、中外製薬のような大企業との連携事業も評価できます。今後の課題としては、学習を通じて身に付けた知識（資格など）を産学連携等を通じて知恵に変換するプロセスも可視化する工夫ができると成果の説得力が増すように思います。

○スポーツ・マネジメント科

説明

- ・3年目を迎え、28年度、初めての卒業生を出した。日頃より、外部講師を招聘しての講演会など、多種多様なプログラムを実施している。28年度は、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」への参加や、パラスポーツ体験会への参加などを実施した。パラスポーツ体験会への参加によって、共生社会を考えるきっかけになった。
- ・新たにJAXA（宇宙航空研究開発機構）との連携で、「宇宙とスポーツ」という授業に取り組んだ。

意見

- ・いろいろな講師の先生の話が、進路を考える良い機会になっている。
- ・課題としては、行事が盛りだくさんだったので、精選をすることも考慮していきたい。また、上級学校への進学に向けた、より一層きめ細やかな進路指導をお願いしたい。
- ・進路指導において、進路に対する生徒の意識を高めるためにも、早期の3者面談の実施をお願いしたい。
- ・1回目の卒業生のノウハウや進路に関するデータを今後有効活用する観点から、スポーツ・マネジメント科の生徒の進路状況に関するデータ等の提供をお願いしたい。
- ・通常の高校生では体験することのできない著名人による講演や指導などを受けることができ、何ものにも代え難い経験を積んでいると思います。その一方で、卒業生が少ないことから生徒のキャリアに関するモデルが少ないのではないかと思います。引き続き、外部講師の講演会などを通じてキャリアに関する視野を拡げる機会を用意されてはどうかと思います。

○国際学科

説明

- ・国際交流の取り組み（バンクーバー市の姉妹校）。
- ・Y S F（Yokohama Student Forum）で、台湾の高校生と英語で国際問題を考える会議を実施し、生徒の力になっている。

意見

- ・国際学科の卒業生の英語運用能力については市内高校でもトップレベルと思います。これを伝統の商業化とともにY校のブランドとして育てていかれることを期待しています。

説明

- ・国際学科の状況を知ってもらうため、国際学科NEWSLETTERの発行を継続し、月1回のペースで発行した。

- ・TOEIC-IP では、毎年同時期にこのテストを実施しているため、個々の生徒の成長や課題を把握することに役立った。
- ・課題はボランティア活動の充実、行事の実施に伴うHPのよりタイムリーな更新、ホームステイを受け入れていただく家庭への、事前の情報提供があげられる。

2 教育活動の状況

□教科指導の状況

説明

- ・基本となる目標はわかる授業であり、問題解決能力を養うことである。自分で問題に気付く習慣をつけ、自分で解決する能力を育てる。
- ・学校での学習により、それぞれの生徒の進路実現を支援するのが使命と考えている。
- ・公務員や民間就職など生徒 50 名ほどが実際の社会で出ていくので、社会で通用する力を身に付けることが大切と考えている。
- ・進路実現に関して アンケートの保護者 2、80% 教員 5・10、80%以上の数字を示している
- ・課題としては、部活動と家庭学習の両立である。部活動の実施においても、週に 1 回程度の休みを設けるなど、一定の配慮は行っている。
- ・生徒の学習意欲の喚起。

意見

- ・アンケートにより取組の達成度をデータで裏付けている点は評価できます。その一方で、「わかる授業の実践」などの取組目標については、生徒向けのアンケートに質問を設けて生徒の反応を直接つかむことも検討されてもよいかと思えます。
- ・教職員のアンケートで、「教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。」が他と比較して低いことが気になります。一般に業務は増加することはあっても、減少することは稀なので、時間を作り出すために、業務のやり方を見直すような研修会などを企画されてもよいかもしれませんね。

□進路指導の状況について

説明

アンケート 生徒の 6、80%以上は満足している。

- ・課題としては、スポーツ関係の進路先の確保。

意見

- ・進路に関する情報提供に関し、27 年度と比較して生徒と保護者で異なる反応があったとのことですが、指導実態が十分に伝わっていないということのほか、保護者側の期待やニーズを十分に救い上げられていない可能性が考えられます。保護者会などで保護者の期待やニーズを聞き取ることもあってよいかと思えます。

3 学校経営の状況

□保護者・地域等との連携協力の状況について

説明

- ・全般的に教員とPTAの連携協力は円滑と判断している。教職員アンケート 23 90%が良好
- ・HP の充実のため、29 年度、新しい委員会を設置して充実を図る予定である。多くの卒業生も学校のHPを見ているので重要と考えている。
- ・地域の方々に好意的な理解をしていただいている。Y校祭などを通じ、地域との関りを今後も継続的に行う。町内会への文化祭のポスターも協力的で、ありがたいことである。

意見

- ・Y校のように区民の誇りになっている学校はなかなかありません。地域との良好な関係を継続してほしいと思います。

□授業参観をしての全般的な感想・意見

- ・ Y校は地域において、街おこしや防災の面でも親しみのある大切な学校と考えている。
- ・ Y校に誇りを持っている卒業生が多い。HPなどで、Y校の良さをもっと広報してはどうか。
- ・ 子供が通う学校を知る機会として、授業参観や学校行事が有効に活用されると良いと考える。
- ・ 学校を訪れるたびに礼儀正しい生徒が多いと感じる。
- ・ 採用されて日の浅い若手教員が、生徒の関心をひきつける工夫をしながら、元気よく指導されている姿を見て、頼もしく感じた。

報告・その他

- ・ 28年度、優秀教育実践校として横浜市教育長から「学校賞」を受賞した。
地域への貢献などが評価されたと考えている。
- ・ 受賞おめでとうございます。今後も横浜市民が誇れる学校であってほしいと思います。
- ・ 生徒に対するアンケートで「あなたは災害時の避難経路を知っていますか」が目立って低いようです。防災の観点より、備えあれば憂いなしの意識で指導をお願いしたいと思います。
- ・ Y校の愛称で、昔から呼ばれ、地元から愛されている。非常に稀有な学校であると感じます。その伝統を守り育てて、国際学科のような新しいチャレンジもされていることに敬意を表したいと思います。